

# 2023 AUTOBACS Super GT

## Round 5 SUZUKA 450km RACE



日産京都自動車大学校  
学生広報作成 レースレポート

この活動は多くのスポンサー様に支援されています



# KONDO Racing Team No. 56

## レース結果

44周目 マシントラブルにより、リタイヤ

チームランキング 3位

総合ポイント 49

サクセスウエイト 100kg

## 目次

P3 Super GT 概略

P4 NISSAN MECHANIC CHALLENGE 概略

P5 KONDO Racing Team 監督 インタビュー

P6 KONDO Racing Team ドライバー インタビュー

P8 日産販売会社 テクニカルスタッフ インタビュー

P11 学生インタビュー

P17 レースレポートまとめ

# Super GT 概略



GTとはGrand Touring（グランド・ツーリング）の略称で、市販車に大掛かりな改造を施したレーシングカーのことを指します。そのGT車両によって争われる国内最高峰のレースシリーズが「SUPER GT」です。

SUPER GTは、「GT500クラス」と「GT300クラス」の2つのクラスの車両が同時に走行しているのが特徴です。2クラスの混走を行うことで、両者は頻繁にコース上で交錯することになり、互いに追い抜きのチャンスが生まれ、終始白熱したレースになります。私たちのチームである『56号車：リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R』は「GT300クラス」に参戦しています。さらに、直近では2022年のシーズンで、見事シリーズチャンピオンを獲得しています！

そして、SUPER GTのレースをさらに面白くしているのが、「サクセスウエイト制」という独自のルールです。これはクルマにサクセスウエイトという重りを積むことにより車両の重量が増加し、運動性能を調整することで、クルマのパフォーマンスをレースごとにある程度均一化します。それによるレース内での車両同士の攻防を増やすことが目的です。入賞者には、次戦レースで獲得ポイントと連動したサクセスウエイトが課され、シリーズを通して勝ち続けることが難しくなっていくところも見どころです！

担当：森岡

# NISSAN MECHANIC CHALLENGE 概略



「ひとりでも多くの若者をクルマ好きにしたい」という思いから2019年にスタートした、日産自動車、日産自動車大学校、KONDO Racing Teamが共同で取り組む人財育成プロジェクトです！

全国の日産販売会社から選抜されたテクニカルスタッフ（日産販売会社の整備士）と日産自動車大学校の学生が、近藤真彦監督率いる『KONDO Racing Team』と共に、国内最高峰レースである「SUPER GT・GT300」の舞台に挑みます！

日産販売会社のテクニカルスタッフはレース1週間前から、決勝当日までKONDO Racing Teamのメカニックと全ての活動を共にし、日々の業務で培った技術力を武器に、チームの一員としてレーシングカーの整備などを行うことで勝利に貢献するだけでなく、普段の業務では得ることのできないスキルや経験の獲得を目指します！

学生は「ホスピタリティスタッフ」「テクニカルスタッフ」「ドライバーサポート」「広報スタッフ」に分かれ、この真剣勝負の場で社会人として必要な主体性、チームワーク、おもてなしの心、感謝の気持ちを培い、学生がチャレンジして学び合うことをプロジェクトの目的としています！

担当：森岡

# KONDO Racing Team 近藤 真彦 監督



～近藤監督が語る～

## 「1等賞を目指す大の大人たち」

初代日産マーチのCMをきっかけに、車業界に興味を持ち、カーレースというカテゴリーに夢中になった。それはアイドルというジャンルで歌手をしていた人間が、突然男臭い業界に足を踏み入れたことを意味し、最初はアイドルのチームと言われていた。それでも何十年も続けてきて、優勝するような強いチームになって、気づけば誰もそんなことは言わず、ライバルとして見てもえるようになったことが凄く嬉しい。

それでもまだ歌手としても監督としても活動をし、「近藤真彦」という四字熟語をかっこよくする事が僕の人生の目標だと思っている。

NISSAN MECHANIC CHALLENGEを10年前から続け、周囲に浸透してきた今、昨年1位に導いたエンジニアやメカニックたちの技を目の前で体感して欲しい！ここへ来た時とチェッカーを受けて帰る時の目つきの変わった学生を見ることが何よりも嬉しい。中にはチェッカーを受け、涙する学生がいるほど、ここは熱い現場なんだ。この経験を通過点に、自分自身の成長に繋げて欲しい。

担当：森岡

# KONDO Racing Team ドライバー 名取 鉄平 選手



～名取選手が語る～

## 「オンとオフ」

私がレース中意識していることは、まず、鈴鹿サーキットでは他と比べ、道幅が狭くリズムカルなコースで、ブレーキをフルで踏むコーナーがヘアピンとシケインの2箇所あり、最高速の8割のスピードでミスなく走ることが重要になります。そして、富士スピードウェイではほとんどを最高速で走るサーキットで、ブレーキを限界まで我慢する感じなので、鈴鹿サーキットと比べるとブレーキングポイントは少ないです。

しかし実は、特にこれといった戦略はありません。サクセスウエイトを100kgも載せるとなると、ブレーキにはかなり負担がかかり、コーナーの負担は大きくなります。そこをグリップ力も持久力も高いヨコハマさんのタイヤがカバーしてくれています。こうした支えがあり、運転を丁寧にする事で、大きな動きではなく優しく繊細に運転するように心がけることができます。

こういったポイントを抑えていると、ビデオゲームのグランツーリスモでも活かせるんじゃないかと思います。とは言っても、私はしたことないです(笑)。ゲームは好きで良くするんですけど、私の中でレースゲームといえば、マリオカートですね！

担当：井上

KONDO Racing Team ドライバー  
ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ 選手



～オリベイラ選手が語る～

「楽しんでこそそのレース」

レース中に追い越すタイミングやポイントはケースバイケースで、レース毎に違います。それでも変わらない事としては、自分自身でいい場所といい機会を「理解し、選択し、行動に移す」ということです。このコーナーを曲がる時、タイヤは自分の方がいいのか相手の方がいいのか、先行者は誰なのかなど様々な材料を瞬時に見極めることがとても大事になります。

そんな中、私はいつもエキサイティングにレースをしています！ 特にレーススタート時とレースリスタート時はエキサイティングです！ 時々セーフティーカーの導入や赤旗中断になった後、レースが再開されます。そのリスタート時はもう一つのレースが始まるようで、注意深く進めていくものの、いつもわくわくしていますね！

そして、私はKONDO Racing Team、ヨコハマタイヤ、NISSAN MECHANIC CHALLENGEが一つになって、みんなで一緒に働く「家族のようなチーム」が大好きです！

担当：森岡

# 株式会社日産サテライト新潟西 テクニカルスタッフ 五十嵐 雄偉 さん



～TS 五十嵐さんが語る～

## 「些細なことにも気付くことが大切」

普段、私はお客様のお車を整備することが多いので、このようなレーシングカーを整備するにあたってさまざまな発見や感じたことが多々ありました。

まず1つは作業場内の空気感についてです。非常に小さな部品も厳しく管理されており、普段の**職場以上の緊張感**を持って作業に携われました。2つ目は、普段の仕事ではあまり意識することがないような箇所**の作業**についてです。

今回、私は足回りやタイヤに触れる機会が多くあり、様々な条件下でそれらの状態などを考えることがよくありました。また、ピット作業は全身が痛くなるほど辛いものでしたが、チームの車両がピットに入ってきたときはものすごく興奮します。このような新鮮な感覚はここでしか味わえないと私は考えます。ここで得た経験を無駄にしないよう、これからの業務にしっかりと活かしていきたいと思います。

担当：中野

# 日産大阪販売株式会社 テクニカルスタッフ 村宗 豊 さん



～TS 村宗さんが語る～

## 「プロの技を前にして」

「とにかく頑張ること」そして「楽しむこと」を胸にこのNISSAN MECHANIC CHALLENGEに挑みました。この活動ではほかの販売会社のテクニカルスタッフと交流が多く、そこでは各々の整備方法の情報交換など、とても有意義な時間を過ごせました。自分自身を強化することが出来るため参加しました。

この活動の中で興奮したことは、チームメカニックさんのタイヤ交換を生で見ることができ、想像より早かったことです。「自分でもやってみたい」

「チームメカニックの服を着てみたい」と思いました。

普段の整備の中で好きなことは、エンジン交換やミッション交換など重整備が好きです。

学生にアドバイスをすると、就職活動する前にはその会社のことをよく調べておくことが良いということです。同じ日産の販売会社でも色々あるので、事前に沢山調べて、自分にあった会社を選ぶと良いと思います。また成績が良ければ、選択肢もそれだけ多くなるので、しっかり勉強した方がいいですね。

担当：井上

# 京都日産自動車株式会社 テクニカルスタッフ 吉田 智紀 さん



～TS 吉田さんが語る～

## 「すべての作業にこだわりを」

今回、この活動に参加させていただき、いつも私たちが仕事でしている整備とは一味も二味も違うような体験をさせていただきました。私は体を動かすのが好きで、体力には自信があります。しかし、いざ参加してみるとピリついた雰囲気の中で、普段の整備では使わない筋肉を使うなど、心身ともに疲れが見えました。私もまだまだだなと思った反面、学びもありました。

それは、レースメカニックの「こだわり」を感じられたことです。普段、私がする整備では確認を1回のみを何度か行っていたり、少しでも数値が違えば何度も調整を行い、車両をベストの状態に持っていき姿を間近で見ることができました。またレースメカニックがタイヤ交換の練習では、スピードといかに正確にできるかを話し合ったり、トライしていて「私たちではできないな」と再認識させられました。それでも是非やってみたいと思い、見ていてすごく興奮する瞬間でした。

私はこの活動を経て、自分の「こだわり」を意識し、この得た知識を普段の仕事でも活かしていけるよう頑張りたいと思います。

担当：口田

# 学生統括 3年生 入船 慎平



## ～学生統括 入船が語る～

### 「自分の好きなことを伸ばす」

この活動の趣旨は「一緒に応援する」ということで、来場する全ての皆さんに全力で楽しんで頂けるよう心がけてきました。

私自身「接客が好き」で、色んな方と話をすることが楽しいなと感じています。その中ではやはり、ゲストに喜んでもらえることが何より嬉しいです。実際には、接客以外でゲストに声をかけに行っていました。それは来場される大人からお子様まで、親身になって話しかけていくとこで、イベントひとつに対しての盛り上がり方が変わってくるからです。この細かい気配りがゲストの皆様には1番喜んでもらえて、そういったマニュアルにはない+αのスキルが大事になってきます。それを繰り返すことで自分の身になっていき、接客にハマる理由の一つになります！

実際、体力を使う活動になるので、宿に帰って気づいたら寝てるみたいな子もいます。確かに大変だなと思うところもありますが、それ以上に得るものは多く、疲れを忘れるほど楽しい活動だと断言できます。

今回が最後となり、寂しくありますが、「自分たちでやろう！」と志の高い2年生が多いので、後輩たちへの引き継ぎに力を入れました。また来年もいい活動ができるよう、期待しています！

担当：森岡

# ホスピタリティ 2年生 豊丸 偉樹



～ホスピ 豊丸が語る～

## 「非日常」

この学校でしかできない活動、そして校内にいるだけでは味わえない体験に、皆さん進んで参加して欲しいと思っています。

アルバイトのような接客とは違い、車の排気音やエアインパクトの音、実況や効果音が響き渡る中で、お客さんと接することになります。そして、来場されるのはこの活動を支援して下さっているスポンサー様がほとんどです。もちろん、学校にはお客さんは居ないため、いい緊張感を持って、言葉遣いにも気を付けながら私の声が届くように、と心がけました。

ただ、接客だけするのではなく、常に周りに気を配りながら自分のやるべきことやなにか手伝うことは無いかと視野を広げることも大切だと学ぶことができました。こうした非日常的な空間で、みんなでコミュニケーションを取りながら、協力してひとつの目標に向かって突き進むこの活動がとても楽しかったです。社会人に向けた勉強もでき、車好きならなお楽しめる、魅力に溢れた活動だと私は思います。

担当：森岡<sub>12</sub>

# ホスピタリティ 1年生 ラジカ



～ホスピ ラジカが語る～

## 「経験を生かす」

今回私は初めてこのNISSAN MECHANIC CHALLENGEという活動に参加しました。初めてのことがたくさんあったので緊張の連続でしたが、このような場に身を置けたことは非常に貴重です。自分にとって非常に充実した三日間になったと思います。特に、普段の生活にも活かせるようなことを学べたことが嬉しかったです。メンバーとコミュニケーションを取り合いながら会場の設営や撤収といった作業を行えたことは、日本語の勉強にもつながりました。

また、接客の仕事もアルバイトなどでの経験を生かしつつ、より丁寧なおもてなしを心がけることで、正しい言葉遣いなどを学びました。このように、私はこの活動を通じて、私が思っていた以上のたくさんの経験を積むことができました。そして、参加してみてこの活動は普段の生活とはまるで違うなということを実感できました。ですから、留学生のみんなにもこの活動でしか味わえない緊張感や達成感などをぜひ経験して欲しいです。先ほども述べたように、日本語の勉強にもなりますし、普段の生活で役に立つことも非常に多いです。もっともっとたくさんの留学生もこの活動に参加できたら良いなと思います。

担当：中野

# テクニカル 2年生 南 虎汰



～テクニカル 南が語る～

## 「プロというもの」

サーキットを駆け抜けるGT300も、街中を走る車も、足回りやエンジンなどの部品の基本的な構造は実は共通していることが多いです。もちろん部品の価格や精度は異なりますが、それらが動く原理は同じです。実際に私もこれらの整備に携わりましたが、やはりプロの作業は別格です。

KONDO Racing Teamのメカニックの方からの指示を即座に理解し、迅速に作業に取り掛かるTSさんを見て、心が打たれました。そのTSさんの姿を観察していると「この作業の時はこうすれば良いのか」といった技術面での気付きも同時にありました。その際、一つ一つのパーツに対する**管理の厳しさや責任感の重大さ**もひしひしと感じました。こうしたプロの技術を、ピット内という日常では味わえないほど緊張感が高い空間で観察する機会というのは本当に貴重です。

この空間に身を置いて多くのことを学べたと思います。また、自分が作業に関わった車がコースインして、周回を重ねているところを見ると非常に感慨深いものがあります。このような非日常を体験できるのがこの活動の魅力だと思うので、みなさんにはぜひ奮って参加していただきたいです。

担当：中野

# テクニカル 1年生 北岡 陽太



～テクニカル 北岡が語る～

## 「今回の経験を糧に…」

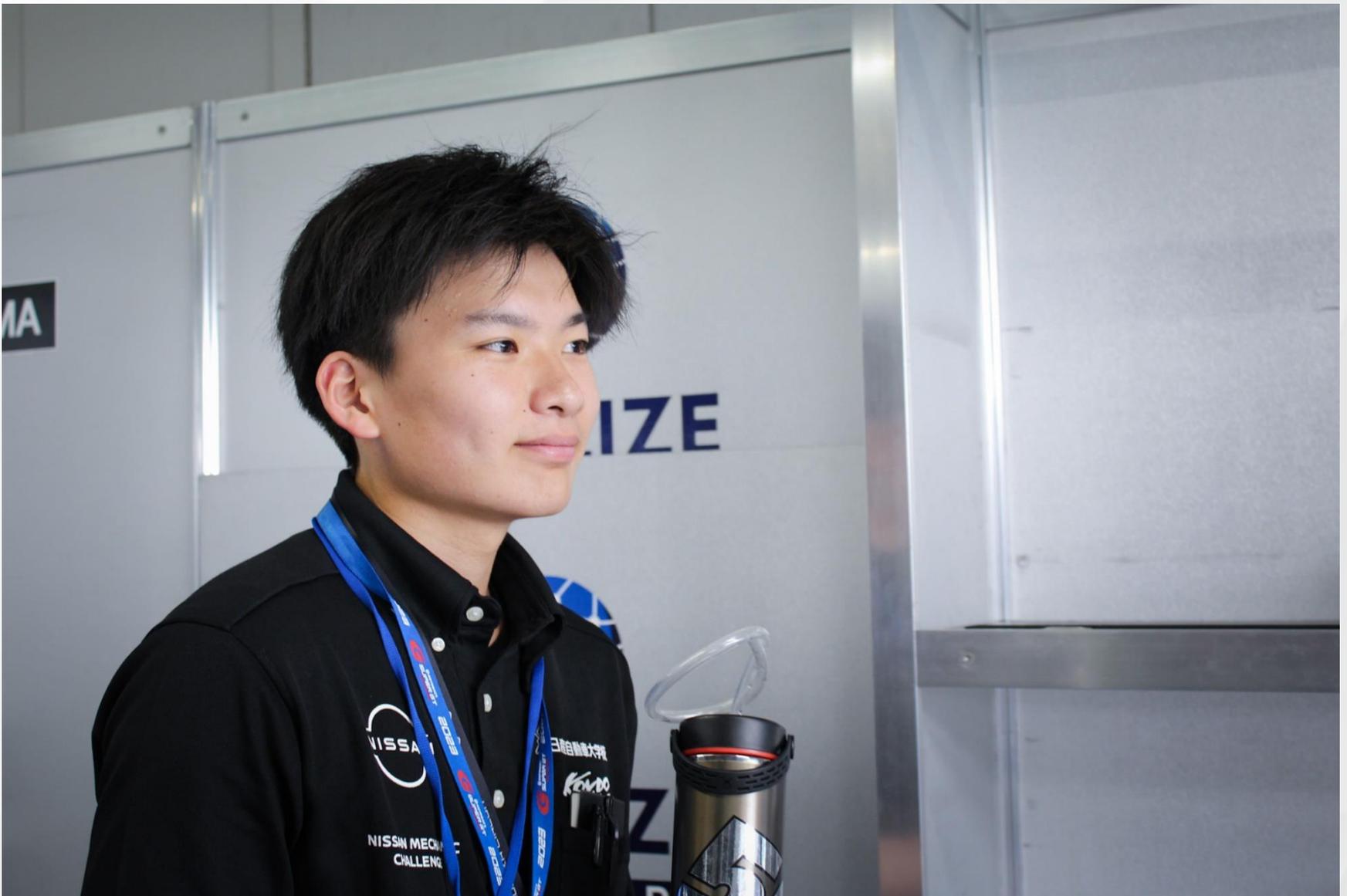
NISSAN MECHANIC CHALLENGEに初参戦しました。Super GTというものが一種のエンターテインメントとっていたものが覆され、緊張感漂う雰囲気の中、この一戦にかけるメカニックの熱意に圧倒されました。

そこで特に私がすごいなと思ったのは、車両がピットインとなった瞬間、メカニック全員のスイッチが入って一斉に準備し始めたところです。少し前まで楽にしていたところ、一瞬でその切り替えをし、他では見れないくらい素早く感じました。また、実際にレース車両を触ってみて、学校にあるレプリカとは違い、何千万もするオリジナルに触るのがすごく怖く感じました。それでも何度か触ってみると慣れてきたのか、しっかり整備に参加できるようになりました。

今回参加してみて私は「実際に見て実際に体感する」という空気感と緊張感がここでしか体験できないものだったので良かったと思います。またプロとしての仕事の正確さを見れたのも良かった点です。今回参加できなかった人も次回は是非参加して緊張感やピット内の空気感を是非体験してもらいたいです。

担当：口田

# ドライバーサポート 2年生 畑野 太一



## ～ドラサポ 畑野が語る～

### 「180° 変わった」

このレースというものは画面の中の世界だと思っていました。しかし、実際にその場に足を踏み入れると、すごく面白い世界でした。このひとつの車両を走らせるのにどれだけの人が、どんな人が関わってきているのか、画面上では知りえないことが目の前に広がっていました。

そんな中、私はドライバーサポートとして活動してきました。ここでは、ドライバーだけでなくメカニック達のスーツ等の準備や、ドリンクの作成、受け渡しなど、多くのお仕事をさせていただきました。やはりドライバーとの接点が多いこともあり、少し交流ができたり、マル秘情報も聞くことができたりするのはひとつの魅力だと言えますね。

今後、就職してからとなると、このピットに、KONDO Racing Teamと一緒に活動できる機会はほとんどありません。それを学生のうちに経験できるというのはこの活動の大きな魅力だと感じました。そして、56号車に限らず、24号車のメカニックの方々にも色々タメになる話を聞きことができました。そこで私は「こういう道もあるんだな」と自分の整備士としての将来のビジョンが少し見えてきました。

担当：森岡

# レースレポートまとめ



今シーズンから、自動車メディアのベストカーWeb編集長の指導の下で、プロの仕事を身近に体験出来る機会を作っていただきました。そこでは写真の撮り方や記事の書き方などの広報としての教えだけでなく、人としての成長に繋がる教えも学ぶことができました。

レースはリタイアという悔しい結果になり、涙する学生がいました。私もそのうちの1人ではありますが、その後すぐに出たベストカーさんの記事を目にしました。そこでは「プロ」という高い壁を突きつけられました。これがプロなんだと、完敗した気持ちと、感謝と尊敬の気持ちで溢れました。

この経験ができたこと、この機会を作ってくくださった広報支援部の方々を始め、KONDO Racing Team様や、日産自動車、ベストカー様、そしてこの活動に支援してくださっているスポンサー様、ファンの皆様など多くの応援があつて、この活動は成り立っていることを学生一同、心より深く感謝いたします。本当にありがとうございました！

担当：森岡

広報学生スタッフ  
広報学生統括 3年 森岡 海大  
2年 井上 颯太  
1年 口田 純也  
1年 中野 嘉人